

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

|       |  |
|-------|--|
| カテゴリー | 一般演題口演   |
| タイトル  | インターネットを活用したリアルタイムな多職種連携 ～夕張地域におけるサイボウズ Live 導入例からの分析～   |
| 日時    | 平成 25 年 3 月 31 日 11 : 20～11 : 30   |
| 会場    | 第 8 会議室  |
| 座長    | 坂の上ファミリークリニック 小野宏志先生   |
| 演者    | 夕張市立診療所 中原 宏和先生  |
| 企画趣旨  | <p>在宅ケアの現場では、電話、FAX、電子メールが既存の連絡手段である。しかし、事業所も職種も異なる各主体が、既存の連絡手段のみで情報を共有する場合、以下の三点の課題がある。まず、各人が得た情報をタイムリーに共有することが難しく、正確な情報が迅速に伝わらないことがある。次に、互いに手を休めなければ連絡ができず、時間のコストと、紙代や通信費のコストがかかる。最後に、顔が見えるコミュニケーションの中から生まれる一体感を醸成することが困難なことがある。これらを解決するために、携帯端末でインターネット上に情報を記録・閲覧できるサイボウズ Live を夕張市立診療所と複数の事業所が導入した。本発表では、多職種、多事業所の情報共有ツールとして、サイボウズ Live が在宅ケアと各サービス提供者間でのコミュニケーションに及ぼした変化を検証する。方法として、各投稿のキーワードを抽出・分類、抽象化・一般化し、活用事例の検証をする分析と、リサーチクエスチョンに基づいた各職種へのインタビューによる調査の二つを採用する。投稿の手段は文書と画像の双方が使われ、文書としては、症状・徴候の新出・変化、サービスの導入・廃止、検査・他科受診、薬の疑義照会・変更が投稿された。画像としては、患部・患者の静止画、特別指示書・看護報告などの書類が画像として投稿された。また、患家での会話内容やサービス提供者間でのあいさつ・お礼も投稿された。したがって、多職種の記録がどこでも閲覧可能になり、医療と介護、在宅系サービスと入所系サービスの垣根を越えた情報集積ができた。また、時間的に切れ目のない情報共有が可能になり、日常的にケアを担う看護・介護職と、ポイント的に介入する医療職との間で密度の高いコミュニケーションが生まれた。以上のことから、サイボウズ Live の導入によって、在宅ケアとそれを担う主体間でのコミュニケーションに変化があったといえる。</p> |